

# 麦の郷 通信

“麦の郷とは”住民のニーズから  
生み出され、住民の手によって育てられる

August 2017

ソーシャルファームビネル/くろしお作業所/くろしお作業所分場/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テール/けいじん舎/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター「つれもて」/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷紀の川生活支援センター/ハートフルハウス 創/むぎピース/障害児者サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/こじか親子教室/ソーシャルファームもぎたて/Po-zkk/六星舎/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637  
〒640-8301 和歌山市岩橋643 http://www.muginosato.jp



第40回障害者・市民の夏まつり 7.22 (土)



第23回 西和佐地区・麦の郷夏まつり 8.3 (木)



おどろんや  
～紀州よさこい祭り～ 8.5 (土) / 6 (日)



## 私たちのめざすもの ～麦の郷4つの理念～

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりをもとめ、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



# わくわくレポート活用方法

## 「むぎ・わくわくレポート」の活用

\*なかまもスタッフも完璧な人間などいない中で、お互いに成長しあう「麦の郷」でありたい。

\*人権とは「護るべき大切なもの」であると同時に「いのち輝くこと」でもある。いのちを輝かせるような取り組み、かわりがお互いに毎日の中でできているかどうかが。

\*良い点、励まされるようなこと、最近伸びて来たなと思うことなど、なかまやスタッフどちらの面も積極的に取り上げたい。

\*思いついたら、見かけたら、すぐにさっさと書いて、毎日の朝礼で取り上げる。職員会議で取り上げる。などを行い、素敵な職場、作業所を作るきっかけにしていきたい。

この趣旨で「むぎ・わくわくレポート」に取り組んでいきます。

「いのち輝く麦の郷」「わくわくする麦の郷」になっていきますよ!!

(川村)

むぎ・わくわくレポート	
このレポートは、わくわくする麦の郷の職員が、日々の業務の中で感じたことや、気づき、学び、成長を報告するためのものです。	
いつ	年 月 日 曜 日
どこで?	部門は ( ) のへんで ( )
だれが?	なかま スタッフ ( )
どのようなことですか?	
あなたの所属は? あなたの所属は? 発行人 (管理職記入) 年 月 日	

## 【むぎ・わくわくレポート】①

私が所属していた事業所で、とある精神障害の女性と関わりました。それまで知的障害の

いました。日頃、思っていること、漠然としていたことが、クリアになったと思います。「ゆっくりと成長する。」という事を念頭に置いて日々、取り組まなければと改めて思いました。このような研修会は、これからもどんどん開催して欲しいです。障害のある人と共に歩む者も成長し、それを仕事に生かしていくことが大切だと思います。本当に今日は、有意義なひとときを過ごさせて頂き、ありがとうございました。

〇いいお話をきかせていただきありがとうございます。ゆっくりと成長する「なかまたち」をその人その人に応じての対応を支援する私たちも、ゆっくりと成長していければと思います。又かわることも大切だと思えました。医療、ヘルパー、支援員、作業所のスタッフ等々が連携をしながらも、それぞれの役割分担を確認していくことも大事だと思えました。

## イタリア トリエステ トレント研修報告

6月14日(水) 麦の郷人権委員会主催で「イタリア トリエステ トレント研修報告」を法人内でさせていただきました。イタリアは精神保健の進んだ国、精神科病院をなくし地域で精神障害者の治療やリハビリを行い、改革していった国です。

改革の理念や人権の観点から報告させていた

方々との関わりでは自分の中でうまくコミュニケーションが取れているとは思っていたのですが、彼女とは私が在籍した間、上手く会話ができたと思っても数日後に色々と言われたりする日が続き、時には周りを巻き込んで騒動になってしまったりしました。彼女が来る日は朝から憂鬱になったり、どうしても顔色を気にしてしまったりとストレスを溜めてしまい、「もう仕事辞めてしまおうかな」と思った事が何度もありました。それでも同僚の職員に相談をしながら、なんとかその波は乗り切ることができました。そして私は今春、違う事業所に異動になりました。異動の直前、彼女に「話があるから」と呼び出され、今までの事を謝られ、今後

も応援して下さると話してくれました。私は泣きそうになりながら「ありがとう」と伝えるのが精いっぱいでしたが、その時に、この仕事をしていたよかった!と心から思うことができました。

## 麦の郷 居住福祉事業所 職員研修会

5月17日(水) 10時30分から麦の芽ホーム地域交流室においてホーム職員研修会をおこないました。世話人、夜間生活支援に従事されている方



だきました。研修報告で伝えたいことは5つです。①イタリアの精神保健と歴史について。②日本とイタリアの精神保健の違いとは。③比較から見える日本とは。④どうすれば入院中心の精神保健が地域生活中心の精神保健にすすむのか。⑤哲学です。

なぜイタリアに行くことになったのか、そのきっかけや、ベースとなっている活動について説明します。2008年に海門市で精神障害のある娘を母が殺害してしまう事件が起こりました。通所していた作業所職員を含め、私たちに何ができたのだろうか、と自問自答しました。そんな中、精神障害を家族に持つ家族への対面調査を行う事をし、家族の思いを明らかにしていこうという取り組みを行いました。その活動がきっかけで「家族依存から社会的支援へ向けて進める会」(通称「進める会」)が発足しました。そこで私も活動しています。

しかし、再び悲しい事件が和歌山市で2度起こります。精神障害を持つ娘を殺害した父。不起訴となりましたが、老いた父親は、老い先短い人生亡くなった娘のために自分が何かしなければ、という思いを持ってくださいました。そして父の思いを聞く会をシンポジウムを進める会で開催しました。その時に先進地イタリアを日本で紹介している有名なジャーナリスト大熊一夫さんが、シンポジウムを聞きに来てくださり、家族会の方や支援者をイタリア研修に誘ってくださいました。

2017年1月14日から23日までトリエステ、トレントの町を視察しました。学んだことから、

など22名が参加しました。

知的障害への理解や実践をくろしお作業所管理者の城喜貴さんより講義いただき、続いて精神障害の理解と実践を和歌山生活支援センター長上田路子さんより講義いただきました。また上田さんからは発達障害の理解についても説明がありました。

講義の中で職員は、普段は仲間と寄り添い、時には前に立って守り、時には後ろから支えるなど様々な役割が求められること。また障害者と向き合い仕事をするには、その障害特性を知ることでも大事であるが、もっと大事なことはその人となりを理解し、信頼を築いていくことが必要であることなどを話され、非常に印象に残る研修となりました。

終了後にはみんなで昼食会をおこない、大いに意見交換をおこないました。最後に参加された方のアンケートを載せています。ぜひご一読ください。(武田)

## アンケート紹介

〇お話、ありがとうございました。精神障害の歴史、病気の説明、一人一人の障害だからでなく、普通の人として色んな職種の方と連携し、自分のできる仕事をしていく、また、相手との関わりにとまどっても、関わっていく姿勢が大切という言葉にも、自分のグループホームでの仕事にも、活かしていきたいと思えます。

〇城さん、上田さん、今日は、ありがとうございました。イタリアの精神保健福祉の改革は何からはじまったのか、ですが①バザール法ができたこと②病院内でアセスンブレア(議論)をしたこと③精神保健福祉センターができたこと、が改革をすすめた大きなことであると言っていました。しかし一番改革をすすめる上で大事なことは「哲学」であると力説されていました。イタリアでは「精神科病院に入院すると、地域で培っていたその人の人間関係のネットワークが分断されてしまう。そのことが、本人の治療にとってとても良くないことである」ということに気がついたことだと。ですから、入院ではなく、地域でそのままネットワークを断ち切らず、治療を行えるようシステムを作っていくたので

当然精神科病院は解体され無くなりましたので、それに代わるものが需要です。それが①精神保健福祉センター②SPDC(総合病院内における診断と治療のための精神科部門)③社会的協同組合だったのです。

トレントではこの精神保健福祉に加えて、当事者家族の活動を前面に押し出して精神保健福祉のシステムを作っていました。これらのイタリアの取り組みを学び、比べて日本の国とは、を感じ、そこから私たちはこの課題に対してどう取り組んでいくのか、改革に必要な哲学とは、を考えました。

報告でみなさんに十分お伝えできたかどうか分かりませんが、これからも課題に対して活動を続け、みなさんと一緒に取り組んでいきたいと思えます。(川村)

# 新人職員研修会 報告

麦の郷教育研修委員会

『知は力なり』～麦の郷で働く職員として必要なものとは？～をテーマに毎年恒例の新人職員研修を、6月24日に本部交流室にて行いました。

昨年の新人研修以降に入職された方が対象で、今年度は7名が研修に参加してくださり、麦の郷の歴史、人権問題や発達保障、制度や施策について3名の講師に発表して頂きました。その研修について参加者の方の感想などを抜粋してご紹介いたします。

『麦の郷の職員として働きはじめ、まだ一ヶ月と短い期間ではありませんが、「困難なことに直面した時には自分で抱え込まずに周りの仲間と伝えてみる。そこで解決できないことは連携して考えていける」ということ、支援者／被支援者という縦の関係ではなく、地域社会の中で生きる仲間という横の関係で「共に歩み、考える」関わりをしている場であるということを実感できています。そういった思いに共鳴した人たちが集まっている場だからこそ、そこで働く職員の話や働くことや語り合うことで私自身もすごく刺激を受け、心に熱いものが湧いてくるのを感じます。今はまだこの熱く込み上げてくる思いを私がどのような言葉や形にしていけるのかは見えていませんが、今後の仲間たちとの日々の取り組みの中で少しずつ見つけていける

ことを強く願っています。』

『今回の研修会において今の実践が最善の実践なのか自問自答することが大事ということが述べられていた。これは自分の実践を疑うことは勿論、麦の郷の実践、哲学、長年麦の郷で実践を作り上げてきた人が行っている実践、言動をも疑うことであると私は考える。これから麦の郷の実践をいろいろなものと比較した上で麦の郷の素晴らしいところがわかるかもしれないし、良くないところもわかるかもしれない。麦の郷の現状、本質を知るためにも、私は麦の郷の実践を疑い、また長年麦の郷の実践を作り上げてきた人を疑わなければならないと考えた。』

(中野)

## 夢を語り合える書籍を

～麦の郷出版設立～



1200円+税 Amazonでも発売中!

麦の郷40周年記念誌『対談集 笑顔と元気』

第3部は、次世代に夢をつなぐ実践者として中堅職員が集められました。まさに「揺らぎ」の真ただ中で先輩職員の背中を見ながら、ときには涙しながら仲間と共に育ち合う姿を語り合っています。



この本を読んでくださった方が、またさらに夢を語り合うためのツールとして活用していたければ幸いです。麦の郷出版は、障害の有無にかかわらず、さまざまな生きづらさを抱える人や、それを支える人たちの「揺らぎ」を共に支え合うための出版物を創り出していきたくて考えています。今後とも何卒よろしくお願ひいたします。

(長谷)

ポズック3周年 展覧会

## 『ポングリと



## Po-zkkの合同展

## オチャラカホイ

2014年6月18日にむぎピースの出張所から始まって丸3年。その日を最終日にした展覧会「ポングリと Po-zkkの合同展オチャラカホイ」を和歌山市満屋のギャラリー AQUA さんで開催しました。

麦の郷流」が出版されました。

これまでも麦の郷では、様々な書籍や印刷物を発行してきましたが、このたび、初めて『麦の郷出版』という出版社を麦の郷印刷内に立ち上げての出版となりました。

『麦の郷出版』は、一麦会副理事長 山本耕平先生の「文字離れが進む今、出版部を創設し、次代に向かって書籍を通してさまざまな情報をお伝えしようと考えています。私たちは、よりたくさんの方と書籍を通して夢を語り合いたいのです。」という言葉をもとに設立されました。

『対談集 笑顔と元気 麦の郷流』は、様々な方の語りで構成されています。

まず第一部は、北海道大学 宮崎隆志教授、佛教大学 鈴木勉教授、日本障害者協議会代表・きょうされん専務理事 藤井克徳氏、一麦会 田中秀樹理事長、麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所事務局長・立命館大学 山本耕平教授による座談会です。麦の郷の出版から40周年を迎えるまでの歩みを、それぞれの視点から分析していただき、後半は麦の郷各部部长も参加し、麦の郷の今を、ときには厳しい言葉もいただきながら語り合っています。

第二部は、麦の郷各部部长の座談会です。入職20年を超すベテランの方々ではありませんが、今もなお「揺らぎ」ながら、仲間や若手職員と共に育ち合う姿を語り合っています。福祉現場に限らず夢を描きにくい世の中で、しっかりと夢を語り合えるのも、麦の郷マインドなのだと気づかされます。

開催期間一週間で3000人の来場、最終日のチンドンショーには遠方からも来場され会場に入りきらないくらい大勢の方が来てくれました。ギャラリーのオーナーさんも「こんなに人が来てくれる展覧会は初めてかも!？」と大盛況でした。

そういう関係を作っていく事がその場にいる人の事を認めて暮らしていく事だと感じました。



「オチャラカホイ」とは勝敗を競うのではなく勝った時負けた時の動きを「ミカル」に楽しむという昔の遊び。

ポズックが仕事としている絵を描くこと、手仕事、チンドンをするというのは日々の生活を豊かにしていく一つの手法。頑張れる所は出来る範囲で頑張ればいいし、好きな事のために嫌な事をするのは自分の財産になると思います。でも休む事も忘れてストレスを感じるくらいに死に仕事をするのは何か違う。どうせやるなら「オチャラカホイ」の遊びのように結果だけを重視せず毎日の過程や物語を「ミカル」に健やかに過ごせたらと名付けました。

それに近づくために3年間意識していた事と言えばメンバーに対する接し方。平等ではなく公平に接すると言っ事。家族の様に友達の様に近所さんの様に、その人を自分の中に寄せて接する事。

職員もメンバーも誰もが1人の人間なのでいつでも安定しているとは限らないと感じてもらっ事。腹が立ったら喧嘩して、言いすぎたら謝る。

人によって時間の感じ方や使い方は様々で、すぐに仕事ハマる人もいれば3年であまり見づらかったり始めた人もいます。こちら側が「何かこの人達にしてあげよう」と思うより、自然に健やかにあーでもないこーでもないと共に過ごしていく事が一番の近道なんじゃないかと思っています。

これから先、ポズックはどうなっていくかは誰にもわからないし、その時その時に順応していくって変化し続けなければいけない。

それはアートやチンドンではなく、みんなそれぞれ散らばって活躍しているかもしれません。「生きるに値する」場所作りをしてみんながイキイキとした仕事ができる場所が増えていく事がこの仕事の喜びでありやり甲斐です。40周年記念に関わらずこんな場所がある事を知ってもらったためにも、展覧会やチンドンショーなど全国各地で開催していく事がこれからの目標だと思っています。(奥野亮)

### 舞鶴旅行

麦の郷印刷

前回の旅行と異なり、今回の旅行は真夏の時期となりました。出発当日の和歌山は天候が悪く、出発前は一時雨が降っていたのもあって、殆どの人は帽子を持っていないかっただけですが、目的地の京都の舞鶴の天気は晴れ。そのせいもあって暑がっている人が多かったです。しかし、その分天気を気にする必要なく、観光を楽しむことができました。



一日目の行程は舞鶴市内を見学しました。舞鶴自然文化園の目玉は紫陽花。屋内に展示されている多様な見たことのない種類の紫陽花も興味深かったですが、屋外で群生している紫陽花はどれも目に映える光景でした。ハクレイ酒造は、当初大通りのそばにあると予想していたのですが、住宅街の中で見つけた時は驚きました。でも、その事がこの蔵本が老舗であることを証明しているように感じました。

二日目は宮津市内を回りました。天橋立は日本三景の一つだけあって、名勝地だったので、陸地が海を分断している光景は、事象の帰結としての自然の在り方を訴えているように思えました。午後からはリフレかやの里を訪れ、

そこで昼食を済ませ、その後施設の簡単なガイダンスを受け、見学となりました。主な事業内容は、飲食宿泊事業及び野菜類をジャムへと加工する仕事とのことでした。初めて訪れる麦の郷印刷以外の就労継続支援事業所でしたが、一般就労へ向けての姿勢が非常に意欲的だったことが印象に残りました。

### 工コ班なかまの旅行 in 沖繩

くろしお作業所

6月29日〜30日にくろしお作業所工コ班なかまの旅行で、沖縄に行ってきました！本当は、昨年行く計画を立てていたのですが、ギリギリになって台風が接近し中止に…今年はそのリベンジです！！この日の為に、色々事前学習を繰り返し行ってきました。初めて飛行機に乗る人、飛行機が苦手な人、行く先々で出会う人との交流についてな



行く前のみんなの期待感、食べて満腹の笑顔を見ることができて、有意義な合同レクになったと感じています。ただ、限られた時間内で現地への移動、そして食材準備、後片付けと非常に慌ただしく大変で、池上、辻岡、青木、大谷、池本の女性陣が頑張ってくれたおかげでタイムスケジュール通りに終わりました。

### 初の合同レク！ バーベキュー一腹一杯作戦！

くろしお作業所 分場

6月2日金曜日、ついに！！初めてくろしお作業所分場とめ組の合同レクに行ってきました。スタッフと利用者合わせて総勢なんと40名。今までは、それぞれでレクを行っていましたが、今年のはめ組の体制も変わり、全員が集合して顔を合わせる機会を作ろうということで、行き先、内容を検討した結果、こむぎの郷でバーベキューということになりました。

当日、スペシャルゲスト1名参加を仲間には伝えていましたが、実はバレバレでした。ゲストはウエスの新会長正垣均さんです。スペシャルゲストといえど、気付けば準備と後片付けの際は率先してフル稼働で動いて頂いてました。

出発前に仲間一人一人が均さんの顔を見て、いい笑顔を見せてくれました。さすが均さん！！  
私自身は朝から緊張感がすごく、落ち着かなかったというのが正直なところ。行く道中に仲間に変化がないか、バーベキューの最中、終了後に異変がないか常に気配り、目配り状態です。実は肉は3切れ食べただけで終わりました。

行く前のみんなの期待感、食べて満腹の笑顔を見ることができて、有意義な合同レクになったと感じています。ただ、限られた時間内で現地への移動、そして食材準備、後片付けと非常に慌ただしく大変で、池上、辻岡、青木、大谷、池本の女性陣が頑張ってくれたおかげでタイムスケジュール通りに終わりました。

そんな忙しい中、私のつつかり(どえら)ミスでなんと写真が1枚もない！！

(田村)

### 第23回

### 西和佐地区・麦の郷夏祭り

今年もお祭りの季節がやってきました！8月3日(木) 18時30分 第23回 西和佐地区・麦の郷夏祭りが行われました！！台風が近づくなか、天候にも恵まれ無事に開催することが出来ました。

私は初めての参加、初めての司会と初めてのことばかりでした。司会など人前に出ることは苦手なので緊張しましたが、お祭りだから楽しむもう！！と思い参加しました。  
プログラムでは主催者挨拶、来賓祝辞・来賓

どなど！  
なかま一人一人が色々な希望を抱え、いざ出発！！

1日目は、パイナップルハウスで昼食を摂り、その後沖縄ワールドでエイサーショーと紅型体験！夕食は、宿泊先のロワジュールホテルのプールサイドでBBQ！ホテルの部屋は、全室オーシャンビュー！2日目は、水中船オルカに乗った後、引きこもり支援をしている平良さんとの交流会&三線演奏者の宮里さんとの音楽会♪歌に踊りにみんなの笑顔であふれていました！

Sさん…初めていく沖縄にわくわく♪飛行機に乗るのも初めて！水中船や沖縄ワールドや平良さんと宮里さんとの交流会と色々盛り沢山で楽しかった♪

Kさん…沖縄ワールドで、紅型体験やエイサーショーの踊り楽しかった！

Mさん…ビーチのCAさん美人だった♪ホテルの従業員さんも美人だった♪水中船で、事前に色々配慮してくれていた人に、当日お礼を言いたかったけど、当日仕事の都合で会う事が出来ず、直接お礼を言えなかったのが残念だった。もう一回会ってあいさつしたい！

Tさん…飛行機楽しかったです！ et c...  
なかま達にとって特別な思い出になった沖縄！訪れた場所の各担当の方が事前に色々配慮してくれたお陰で、なかま達が楽しむ事が出来ました！！

帰ってきた後も交流が続いている人たちもいます！9月には沖縄から遊びに来てくれる人もいます！なかま達と特別な縁繋がっている人

紹介があり、よさこい踊り、漫才、エプロンコーラス、ビンゴゲーム、盆踊り、景品抽選会と盛りだくさんでした！夜店ではからあげやこんにやく田楽、カキ氷、飲み物などさまざまなおいしいものが販売されました。次第に日が暮れていくと気持ちいい風がふきはじめ、過ぎやすすくなりました。小さいお子さんや家族連れの方も多く、よさこい踊りやエプロンコーラス、漫才、盆踊りを楽しむ方、夜店で買って食べて楽しむ方、久しぶりに会って会話が弾んでいる方、景品が当たって喜んでる方、たくさんの方の笑顔に出会えたこと、見ていただけでも穏やかな幸せな気持ちになりました。西和佐・麦の郷の祭りを支えてくださる方がいて、楽しみにきてくれている方が多いんだなあ嬉しくなりました。



今回の祭りが23回目ということですが毎年来てくれている方、私と同じように初めての方も、少しでも西和佐地区でみんなが楽しい時間をみんなと共有できたお祭りだったら嬉しく思います。私もとても楽しませてもらいました。ありがとうございました！ (岡本)

## 助成ありがとうございました

### はぐるま共同作業所 和の杜

赤い羽根共同募金様よりプレハブ冷凍庫の設置に助成いただきました。  
 十数年前から地元の野菜や果物を加工して販売商品を製造してきました。中でもフルーツゼリーは和歌山自慢の柑橘類を中心に人気商品となり年間を通じて全国に発送を行っています。取り扱うゼリーの物量に合わせて近年は材料のジュースを保管しておくスペースに苦慮しており、他の事業所に借り置きさせてもらっている状態でした。事業所内に冷凍庫が出来たことにより、効率が格段にUPいたしました。ありがとうございました。(大中)



## 第17回和歌山県障害者スポーツ大会 結果報告♪

6月21日に、第17回和歌山県障害者スポーツ大会(陸上競技)が紀三井寺陸上競技場で行われました。

男子100m走では、松本和晃さんが銅メダル獲得！男子立ち幅跳びでは、宮本高志さんが金メダルを獲得しました！！

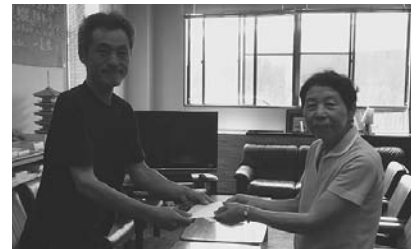
本当におめでとうございませう♪  
(神田)



## 円応教紀の国教会の皆様から ご寄付を頂きました

今年も円応教の皆様からご寄付を頂きました。感謝の気持ちを忘れず、有効に使わせて頂きます。

円応教紀の国教会の皆様、本当にありがとうございました。(山本)



事務所  
東 沙稚子

麦の郷に入職して6年目になる事務のアズマと言います。くろしお作業所、サポートセンター「麦の郷」、麦の郷紀の川生活支援センターを担当しています。

私が入職したころ、事務員はあまり外に出る機会がない、限られた世界の中に居ました。しかし夏まつりや運動会、研修やレクリエーションなど、さまざまなイベントに声をかけてもらい、参加するようになり、なかまや現場職員との関わりを持てるようになりました。今ではいろんな世界に触れられて、とても楽しい学びの日々を送っています。

人間だれしも一人で生きていけません。なかま・職員・地域の方など、いろんな立場の人と交流をもって、互いの喜怒哀楽を話しながら共存していければ良いなと思っています。

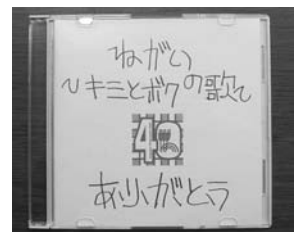
周りの皆さん、いつもイロイロありがとうございます。つねに笑い楽しみながら、仕事を頑張っていきたいと思います。



### 麦の郷 40周年記念冊子「つむぐ」



麦の郷 40周年記念CD  
「ねがい ありがとう」



各500円(税込)  
麦の郷本部事務所にて  
TEL 474-2466

**絶賛発売中!!**